



「保護犬・保護猫の過去と未来」 講演会開催 ～ 人と動物の共生を考えるひととき ～

2025年7月、福岡県糸島市で「保護犬・保護猫の過去と未来」をテーマに講演会が開催されました。講師はワンヘルスマスターの土岐沙也香さん。人・動物・自然がつながる「ワンヘルス」の考え方から、保護動物と共に暮らす未来について語りました。

まず、近年の犬や猫の平均寿命が大きく伸びていることに触れ、「ペットは“癒し”だけでなく、“家族”として長く共に暮らす存在になっている」と話しました。

長く健康に過ごしてもらうためには、定期的な健康診断に加え、日々の運動や愛情あるケアが大切。

「命を預かるには、準備と計画が必要です」

と土岐さんは語ります。

また、殺処分の現状についても触れられました。

地域での保護活動やTNR（捕獲・手術・元の場所に返す）などの取り組みによって、2023年度には9,017頭にまで減少しました。

殺処分数の76%を猫が占めていること、授乳や排泄介助の必要な子猫が全体の44%を占めていることが、今後の課題となっています。

さらに、ペットの販売に関する問題にも触れられました。

一番の課題は消費者（飼い主）に届くまでの流通過程で亡くなってしまう動物がいることです。体がまだ弱い動物にとってストレスや環境の変化が大きな負担になることが説明されました。

犬と猫の寿命が伸びています！



14.76 歳



15.79 歳

20年近く生きる例も珍しくありません。

犬・猫の殺処分数が、大幅に減少

2019年度 32,000頭（全国）



2023年度 9,017頭（全国）



最近では、保護犬や保護猫を新しい飼い主に譲渡する前に、ワクチン接種や不妊手術などの初期医療を済ませておく取り組みが広まり、飼い始めてからの健康管理もスムーズに行えるようになっていきます。

人と動物、そして自然が支え合う『ワンヘルス』の理念に触れ、参加者に「**小さな行動＝自分の行動が人・動物・環境にどんな影響を与えるかを考えること**」が社会を良い方向へ変える力になると伝えました。



例えば、野良猫にご飯をあげることは思いやりのように見えても、繁殖や交通事故につながることもあります。だからこそ、その行動が本当に正しいことなのか、考えることが大切です。



最後には、保護犬とのふれあい体験の時間も用意され、参加者たちは保護犬たちの温もりに触れながら、命の重さとやさしさを実感していました。



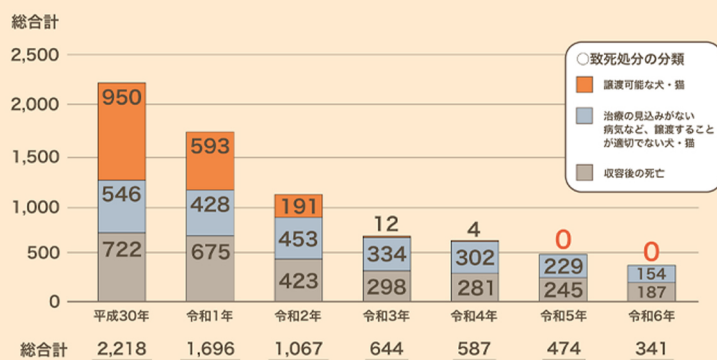
福岡県では、「福岡県ワンヘルス推進行動計画」と「福岡県動物愛護推進行動計画」に基づき、人と動物が共に安心して暮らせる社会を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

福岡県では、正しい動物との関わりや飼い方を広める取り組みを続けてきた結果、令和6年度も引き続き県内の動物愛護センターで保護された犬や猫のうち、譲渡できる子の致死処分を「**ゼロ**」にできました。

福岡県はこれからも譲渡可能な犬や猫の致死処分ゼロを守り、さらに正しい飼い方や地域で猫を見守る活動を広めて、収容される犬や猫の数を減らしていきます。

また、譲渡が難しい子も含め、できる限り命を守るために処分の削減に努めていきます。

福岡県の犬・猫の殺処分数の推移



参考資料：福岡県ホームページ「令和6年度も犬・猫の致死処分ゼロを達成！（2年連続）」